



国際森林年記念

シンポジウム

「海岸林を考える」

～東日本大震災からの

復旧・復興に向けて～」

海岸林は、古くから、飛砂防備や防風、潮害防備などの効果を発揮しています。また、地域の生活に密接に関わり、地域の方々により維持管理されてきました。

東日本大震災では、津波により、太平洋岸の広範囲の海岸林に大きな被害が生じました。同時に、海岸林が津波の勢いを減衰させ、漂流物を捕捉するなどの一定の効果が確認されています。

そのような海岸林について、今回の震災を契機として、海岸林の重要性を再認識し、その機能の再生のあり方を考えるため、6月22日(水)、東京・新木場の木材会館で、「国際森林年記念シンポジウム 海岸林を考える ～東日本大震災からの復旧・復興に向けて～」が開催されました(主催：日本海岸林学会。共催：農林水産省、国際森林年国内委員会事務局)。



田名部農林水産大臣政務官

冒頭、農林水産省から、田名部農林水産大臣政務官が挨拶に立ち、「シンポジウムが、海岸林の再生への取組や各地域での様々な森づくりの取組を強く後押しする契機となることを切に願っている。」と述べました。

シンポジウムでは、海岸林の研究者、地域で保全活動に取り組んでいる方、行政の担当者から、それぞれ話題提供が行われました。

森林総合研究所の坂本知己室長は、海岸林が船舶などの漂流物が住宅地に侵入するのを防いだ事例などを紹介しながら、津波による海岸林の被害と評価を説明したほか、飛砂防備等の機能の回復のために海岸林の原状復旧が不可欠なこと、津波に対しては十分な林帯幅が必要なこと

盛況に終わった国際森林年記念シンポジウム

とを強調しました。

岩手県陸前高田市の高田松原の保全活動に取り組み、自らも被災された佐々木松男さんは、津波に襲われた際の体験を交えながら、松原が多く市民に憩いの場として愛されていたことを紹介したほか、ゼロからの出発になるが、松原の再生に取り組んでいくと述べました。

林野庁治山課山地災害対策室の井上晋室長は、海岸防災林の再生のため設けられた「東日本大震災に係る海岸防災林の再生に関する検討会」で、津波に対する防災機能を強化した海岸防災林の再生や、まちづくりの観点において多重防御の一つとしての位置付けが必要、といった議論が行われていることを紹介しました。

話題提供に続き、日本海岸林学会の林田光祐副会長（山形大学教授）をコーディネーターとしてパネルディスカッションが行われました。海岸林の再生に当たっては、できるだけ機能を強化できるとよい、地域の復興のためのランドデザインに海岸林をしっかりと位置付けていく

ことが重要、といった意見が出されています。

議論を踏まえた締めくくりとして、コーディネーターから、「海岸林の重要性とともに、その復旧に向けてできるだけ速やかに、一方で、息の長い取組を続けていかなければならないことを認識いただき、我が国に再び美しい海岸林が再生するため支援をいただければ幸いです」と呼びかけが行われ、300人を超える満席の会場からの拍手とともに閉幕しました。

今回のシンポジウムは、開催案内の開始後早々に定員に達したほか、会場でも熱心にメモに書き留める姿が多く見られるなど、海岸林に対する関心の高さがうかがわれました。

「東日本大震災に係る海岸防災林の再生に関する検討会」の概要は、逐次、林野庁ホームページにて公開しています。

<http://www.rinya.maff.go.jp/j/visan/visan/kentou.html>

プログラム

■話題提供

- | | |
|-----------------------|-----------------------------|
| ①「海岸林のはたらき」 | 吉崎真司(東京都市大学教授 日本海岸林学会副会長) |
| ②「津波による海岸林の被害と評価」 | 坂本知己((独)森林総合研究所気象害・防災林研究室長) |
| ③「被災地からの報告～高田松原での取組～」 | 佐々木松男(高田松原を守る会) |
| ④「庄内海岸林の保全活動」 | 三沢英一(万里の松原に親しむ会会長) |
| ⑤「海岸林の再生に向けて」 | 井上 晋(林野庁治山課山地災害対策室長) |



吉崎 真司氏



坂本 知己氏



佐々木 松男氏



三沢 英一氏



井上 晋氏

■パネルディスカッション

コーディネーター

林田光祐(山形大学教授 日本海岸林学会副会長)

パネリスト

太田猛彦(東京大学名誉教授)、吉崎真司、坂本知己、佐々木松男、三沢英一、井上 晋

